

欧米ではロゼッタネットの新たな動きが…

欧米でのロゼッタネット参加パートナーは2003年度末時点で米国158社、欧州46社が参加しているが、ここで新しい潮流が生じ始めている。

その1つは04年6月に欧州を中心にしたテレコムカウンシルの設立であり、従来のパソコンを中心にした業界に加え、携帯電話分野でもロゼッタネット標準導入推進の母体が出来たことである。

このカウンシルへは、ブリティッシュテレコム、ドイツテレコム、ジーマス、ノキア、モトローラ、シスコシステムズ、エリクソン、ネクステル、ボーダフォン、AT&T等17社が参加している。

このTCカウンシルでのロゼッタネット標準の実装ターゲットは多岐に渡り検討されている(TCカウンシルの詳細についてはfile32「ロゼッタネットの新しい展開—TC(電気通信)カウンシル」にて紹介)。

もう1つが04年2月に設立されたロジスティックカウンシル(LGカウンシル)である。FedEx、UPS、エクセル、DHL、Menlo、シスコシステムズ、ヒューレット・パカード(HP)、IBM、テキサスインスツルメンツ他が

参加している(LGカウンシルの詳細についてはfile28「LGカウンシルの設立」で紹介)。

このLGカウンシルでは、実際の物流及び物流情報の流れを軸に、各カウンシルを横断的に支援とするものであり、電子通関、船積み出荷情報交換、サードパーティロジスティック(3PL)等を具体的に物流業界の視点で支援していくものである。

新しい潮流を整理してみると、従来のロゼッタネット標準導入が、受発注、在庫管理、生産情報交換等の製造工程に関連するプロセスから、物流プロセス、支払い決済、設計情報・データ交換プロセス等の近隣関連業界に具体的な実ビジネスとして拡大されてきたことを意味している。

このようにロゼッタネット標準は、近隣関連業界への浸透とビジネスプロセス分野の拡大が二大潮流として大きな衝撃を与え始めている。

加えてUCCとの合併、OASISとの連携等によるシナジー効果として、EPCグローバル(RFID関連)との連携などでハイテク業界に新しい分野が開かれてくる。こうした動きに日本企業も大きく関係してくるので引き続き注視していきたい。

ロゼッタネットの新しい動き

